

1 学校教育目標

輝け中川の子
かしこく つよく あたたかく

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 児童と教職員が共に伸びる明るく活力のある学校 ・ 子供の瑞々しい感性を刺激する学校 ・ 児童が「ありたい自分」を発見する学校 ・ 児童が「挑む喜び」を感じられる学校 ・ 家庭や地域から愛され信頼される学校
○児童・生徒像	○ よく考え、たくましく、心豊かな子供 ・ 目標をもち、まっすぐに努力する子 ・ がんばっている自分と仲間を愛する子 ・ 進んで挨拶したり、友達のよさを認めたりできる子
○教師像	○ 児童一人一人を大切に、児童の心に響く指導をする教師 ・ 常に研鑽に努め、児童に学び方や学ぶ楽しさを教えて一人一人のよさを伸ばす教師 ・ 心身ともに健康で明るく、情熱と使命感をもって児童と共に学び、遊び、働く教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

前年度の成果と課題

- ・ 地域と協働して創立60周年記念事業を推進した。児童の心に残る1年となり、地域愛・学校愛を醸成できた。
- ・ 学習の基礎基本の定着に課題が残る。国語・算数を中心に日々の授業で学習したことを確実に身に付けさせる。

学校の現状

- ・ どの学年も落ち着いた態度で生活・学習に取り組んでいる。目標をもち、成果を確かめながら、充実感と満足感を得て努力できる環境を整え、「中っ子」である喜びと誇りを醸成していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	区学力調査において、全学年通過率75%以上を目指し、学力の向上を図る。	◎	◎	◎	○	○
2	心の教育を充実させ、内面のよさを行動や態度で表現できる児童を育てる。	○	◎	○	○	○
3	地域・保護者に信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。	○	◎	◎	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		区学力調査において、全学年通過率 7 5 % 以上を目指し、学力の向上を図る。							
A 今年度の成果目標			達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●
・全校で統一した学力向上策を確実に実施し、成果につなげる。			国語 7 5 % 算数 8 5 %		国語 7 8 % 算数 8 6 %		両教科とも目標を達成している。		◎
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	書 く 力 向 上 マ ス カ ー ド の 利 用	全児童 国語 社会 算数 理科	週 1 回 以上	・各授業のまとめや、国語 の要約、紹介文などを書く 際にマスを使って書く。 ・20・30・50・100 字マス を作成。 ・マス目を利用し的確な量 の文を書く習慣をつける。	授業後ノート を回収し確認	2 年生以上は前 期中に活用を 定着させ、1 年 生は後期より 活用開始とす る。	・書くことへのポイン トが分かり、表現 しようとする意識が 高まった。高学年で は定着した。低学年 では、活用が難しか った。高 学 年 1 0 0 % 活 用	・各学年において段 階的に指導を行い、 計画的に引き続き実 践をしていく。 ・低学年にはマス目 の大きさに課題が残 った。今後高学年で は5ミリ方眼での活 用を進めていく。	○
2 新規	主 体 的 に 取 り 組 む 態 度 の 育 成 キュビナ	全児童 国語 社会 算数 理科	週 1 回 以上	・自学自習に活用 ・学習の予習復習やテスト 前学習に活用するよう4月 に全児童に活用指導(2 年 生以上) ・長期休業の宿題として活 用する	週 1 回程度担 任が確認	月 目 標 を 各 学 年 で 立 て、毎 月 末 確 認 を 行 う	・普段の学習の振り 返りを定期的に行っ たり、長期休業の宿 題として取り組んだ り、適切に復習する ことができた。 ・自学自習、予習復 習、長期休業宿題 1 0 0 % 実 施 後期から1年生も実 施。	・学年により、自分 たちで学習計画を立 て進められるように していきたい。 ・児童により取り組 みの量と質に差が見 られたので、キュビ ナワークも活用して いく。	○

3 新規	読む力向上 読書推進	全児童 国語	低中学年 週1回 高学年 月1回	・図書の時間や朝学を活用し、ブックトークや本の紹介を行う ・国語の教科書にあるおすすめの本をコーナー化し、様々な本に出合う機会を作る	読書記録で確認	低中学年 週1回 高学年 月1回	・学校での取り組みだけでなく、地域図書館や保護者ボランティアとの連携を図り、読書を推進することができた。 - 教科書にあるおすすめのコナーは全学年実施。 ・ブックトーク、本の紹介は全学年で毎月実施できた。	・昨年度よりも読書に親しむ子が増えてきている。本を読みたくなるような取り組みを引き続き行う。 ・学習漫画などに偏らない読書習慣を身に付けさせたい。	◎
4 新規	学校 ICT の活用	全学年 算数 国語・他	毎日	ICT を活用した分かりやすい授業を推進する。 個に応じた指導、自主学習に ICT を活用する。	授業観察 学習履歴等で確認	週1回程度 進捗を確認し 声かけ	・学年に応じて、調べる学習やまとめる学習において活用することができている。 ・算数の図形領域では、ICT を活用して視覚にうったえる授業を全学年で実施できた。	・ICT 活用が推進されているので引き続き進めていく。 ・映像教材を今後も効果的に使うようにする。映像の中でも必要な部分だけを抽出するようにしていきたい。	○
5 継続	基礎学力の定着 放課後補習	2年生以上の児童 算数	週1回程度	・50問かけ算プリントを活用 ・答え合わせまで自分で行き苦手な段は自主練習するよう指導	プリントで確認	高学年は1分以内全問正解 中学年は3分以内全問正解	・朝の学習や放課後補習で50問かけ算プリントを活用し、目標時間を中学年で80%、高学年で9	・かけ算は算数の学習の基礎となることから、問題の内容を精査することでどの学年でも意欲的に取	○

6 継続	基礎学力の定着 放課後補習	個別指導を要する児童 全学年 算数	月1・2回以上	①区学力C・D層対象 4～6月は区学力の復習を行い基礎学力を固める。 ②単元テストで抽出 解説→やり直し→類似問題	・解き直しや類似問題を活用し確認 ・放課後補習の内容について後日類似問題に取り組み定着を確認	・年10回以上実施	0%弱定着している。 ・基礎学力の定着の取り組みをとおして、C.D層の学力の向上が見られた。 高学年では、算数の区調査の最終問題において、無回答の児童が10%まで減った。	り組むことができるように努める。 ・放課後補習が効果的であったことから、来年度も引き続き充実を図る。	
---------	------------------	-------------------------	---------	--	---	-----------	---	---	--

重点的な取組事項－2		心の教育を充実させ、内面のよさを行動や態度で表現できる児童を育てる。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分たちのあいさつや話の聞き方に誇りをもつ児童を育成する。		80%以上	安心して生活できる環境が整ってきている。	今後も取り組みを継続する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつ運動を充実させ、満足感につなげる。	すすんであいさつをする児童 80%以上	開かれた学校づくり協議会とも連携した運動を展開する。	児童のアンケートの結果では、92%が肯定的な回答であり、挨拶することができる児童が多い。	朝の挨拶だけでなく日常的な挨拶も意識できるようにする。	◎
授業中の姿勢や話の聞き方についてのモデルを示し定着を図る。	正しい姿勢や聞き方が身についた児童 80%以上	成果や達成度を確かめる機会を設定する。	正しい授業の受け方は、集中して授業へ取り組むことへとつながる。90%の児童が一生懸命学習に取り組んでいると回答している。	今後も学習規律を習慣づけられるよう引き続き指導を行っていく。	○
生活指導の充実	WEBQUを活用し、安定・充実した学級づくりを進める。	一人一人を大切にする指導を実施する。SOSの出し方教育の充実を図る。	3年生以上で年2回実施。結果をもとに学年で共有を図った。2回目の結果から子供たちが過ごしやすい環境が次第に整ってきている。	教員の学級経営の目安として活用され、効果が見られる。	○

配慮が必要な児童への対応	配慮が必要な児童への支援を適切に行う。	児童相談所、こども家庭支援課、警察、SC・SSWと連携しケース会で改善を図る。	授業や普段の生活の様子を観察し、養護教諭や外部機関とも連携を図るようにしている。	児童の気持ちに寄り添いながら家庭との連携をさらに密にする。	○
--------------	---------------------	---	--	-------------------------------	---

重点的な取組事項－ 3		地域・保護者に信頼され、選ばれる学校づくりを推進する。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育、健康教育・安全教育・減 災教育を充実させるとともに、不登 校傾向の児童や配慮が必要な児童に寄り添った支援を行う。		○学級が安心して学べる場である ○被害想定をもとにした減災教育 ○諸機関との適切な連携	・講師を招き、人権教育や減災教育等について学び、安心して学ぶことができる教育環境になるように努めた。 ・関係機関との連携を図り、児童に寄り添った配慮を考え取り組んだ。	・すぐに改善できないものもあるが、引き続き関係機関と連携を取り、取り組みを進めて行く。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
各行事や学校評価のアンケートを分析し、ニーズを的確に把握する。	把握したニーズに対する対応を確実にし、発信する。	Home&School の活用 確実な分析とフィードバック	・運動会や展覧会等の行事では、アンケートを行い、教職員間で反省を行い、保護者の方へお知らせをした。	・寄せられた意見をもとに、反省を行い、来年度につながるように努めていく。	◎
安全教育・減災教育の充実	被害想定をもとにした実効性のある避難訓練を実施する。	減災教育普及協会の支援を受けて、年間計画を大幅に見直す。	・減災を念頭においた避難訓練を行うとともに、各学年において減災教育を体験的に指導した。	・児童も教職員も意識改善が進んでいる。	◎
地域の環境・人材を活用した体験・表現活動を行う。	地域とつながる活動を各学年で行う。	パズル教室の実施 ものづくり体験 企業との連携授業 地域への作品展示	・子供たちの好奇心を高めるような外部人材を入れた授業を積極的に行った。また、展覧会では、地域の作品も展示し、連携を図ることができた。	・子供たちの興味、関心に沿った体験的な授業などを地域等と連携して行っていく。	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・学習の基礎基本の定着に努めた。児童の実態に応じた朝学習や、個々の教育的ニーズにあった放課後学習の充実を図り、学習したことを確実に身につけることができてきている。学力調査においても目標値を上回ることができた。
- ・「書くこと」に重点をおいた指導の実践を行い、書くことへの抵抗感が減り、意欲的に書こうとする児童が増えてきている。しかし、苦手と感じる児童もまだいることから、学年の段階に応じて継続的に指導していく必要がある。
- ・ICTの活用が進み、主体的で対話的な学習活動が図られてきている。児童が学ぶ楽しさを実感できるよう指導方法の改善を日々行っていく。
- ・多様性の社会において一人ひとりの個性を認め合い、だれもが気持ちよく学校生活ができるよう努めていく。

(2) その他（学校教育活動全般について）

- ・個別最適な学びにおける「指導の個別化」と「学習の個性化」の充実を図るための主体的な学びに取り組む。
- ・学校全体で取り組む「ウェルビーイングの向上」と、いじめ・不登校のない学校づくりに努める。

(3) 保護者や地域へのメッセージ

- ・各行事等でたくさんの参観をいただき、ありがとうございました。子供たちの「力いっぱい」な姿をお伝えすることができたのではないかと思います。アンケートでいただいたご意見をもとに来年度はさらに充実を図っていきます。
- ・PTAの主催により、中川小フェスティバルを、また、開かれた学校協議会の主催によりデイキャンプを実施することができました。コロナ禍を越えて、今年度より再開することができました。ありがとうございました。どちらも子供たちの生き生きと楽しむ姿を見ることができました。「中っ子」であることの喜びと誇りを実感できる学校づくりをさらに推進してまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。